

Ruhe (ルーエ やすらぎ)

März 2009

21

The German House in Naruto

発行日 2009年3月31日
発行 鳴門市ドイツ館
編集 川上三郎
〒779-0225
鳴門市大麻町松字東山田55-2
TEL:088 689 0099 FAX:088 689 0909
URL: http://www.city.naruto.1g.jp/germanhouse/
e-mail: doitungan@city.naruto.1g.jp

ポンのベートーヴェン・ハウスで 「板東」紹介の特別企画展

ドイツのボンにあるベートーヴェン・ハウスで「板東」の特別展示が今年の1月から6月にかけて開催中です。ドイツ館にも資料提供の依頼があり、国際交流員のパトリック・ワグナーがその対応に当たってくれました。そこで、このことについて『ルーエ』ドイツ語版に記事を書いてもらいましたので、ここにその訳文を掲載します。

ドイツ館のパンフレットに「鳴門は第九のふるさと」とうたわれています。そのことは、鳴門市のみならず日本全国で、ま



たある程度ドイツでも知られていることです。「第九」とはベートーヴェンの交響曲第9番のことで、1918（大正7）年6月1日に板東俘虜収容所でドイツ兵捕虜によって初演されたのでした。今日にいたるまで「第九」は日本でとても人気のある曲です。この初演を記念して、鳴門では毎年6月の第一日曜日に鳴門市文化会館で「第九演奏会」が開催されて、日本各地のさまざまな合唱団からの参加を得ています。今年はこの第一日曜日は6月7日になりますが、今回で28回目を迎えることになります。

日本人合唱団の歌う第九交響曲は日本だけでなく、ドイツでも披露されました。すなわち2001年にリュネブルク、その2年後にはブラウンシュヴァイクで日独友好の一環として、「里帰りコンサート」というものが開催されたのでした。

このようにドイツの聴衆は「日本人による」第九交響曲を味わったわけですが、今ではドイツでも日本での初演の背景についての情報を見る機会が生まれています。

日本初演から90年を経た昨年秋、ドイツ館に板東収容所の生活状況と音楽集団に関する資料の提供についての問い合わせが舞い込みました。差出人はほかでもない、ポンのベートーヴェン・ハウスで、収容所での文化活動に関する展示会を開きたいと思っているので、写真とプログラムをいくつか必要としていると書かれていました。ベートーヴェン誕生の地からそのような照会をいただくことは嬉ばしく、また名誉なことでもありますので、ドイツ館は展示会の成功のためにご協力させていただくことにしました。その成果は数ヶ月後に展示会パンフレットの形で私たちのもとに届きました。その表題には「音楽の力。1917年～1919年の日本板東ドイツ人俘虜収容所での文化的な生活。ボン、ベートーヴェン・ハウス特別展示会。2009年1月21日～6月19日」と書かれています。

筆者は残念ながらみずから展示会を訪れることはできませんでしたが、パンフレットからだけでも展示会の構成が非常によく分かります。主な眼目は収容所での音楽活動で、ベートーヴェンの作品を中心に取り上げています。史実にもとづいて、

板東へのドイツ兵の収容にいたる歴史的なことがらについての紹介があり、丸亀など他の収容所についても言及されています。

「第九」のみならず、捕虜の演奏したベートーヴェンやその他の作曲家の作品が、ひとつずつ展示物についての解説を付しながら取り上げられています。極めて貴重な歴史的記録である収容所新聞『ディ・バラック』ならびに収容所で用いられていた印刷方法についても展示があります。さらに演劇と捕虜製作品展覧会から、鳴門での日独友好関係再開を語る上で欠かせない収容所死亡者の慰霊碑のことも触れられています。

ベートーヴェン・ハウスでの展示を自分の目で確かめられないのは極めて残念なことです。幸い、知り合いの日本人の方がドイツ旅行の際、そこに行かれました。彼から聞いたことはパンフレットから得た印象とさほど違うものではありませんでした。音楽を中心にして、他の収容所と比較しながら板東収容所での生活が描かれているということです。特別展示は非常に詳細にわたり、ベートーヴェン・ハウスの規模からみて、多くの展示スペースを割り当てているとのことでした。

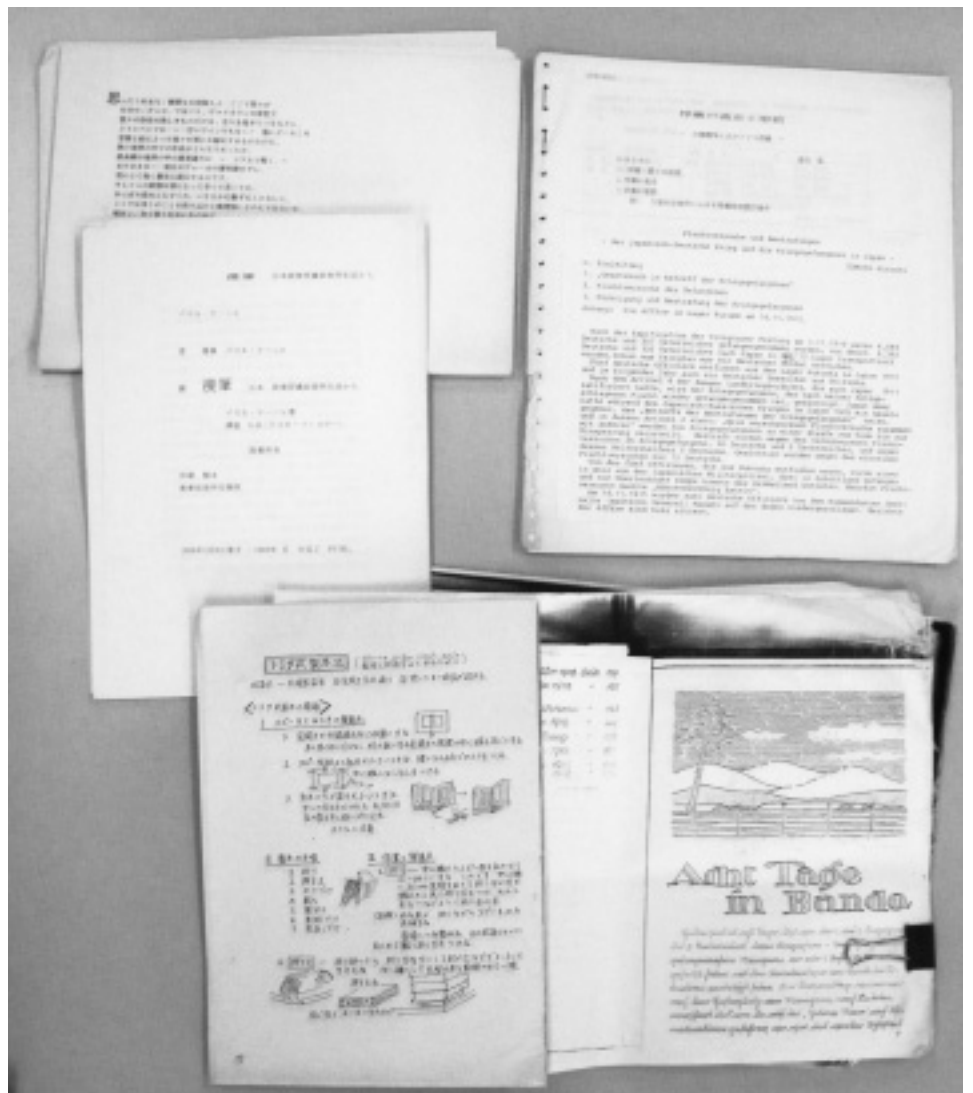
この場をお借りして、ベートーヴェン・ハウスには心から感謝を申し上げたいと思います。ほぼ半年という期間、ドイツ本国で板東俘虜収容所でのドイツ人の暮らしを知る機会が生まれたのですから。多くの人々がベートーヴェン・ハウスを訪れて、板東と日本における「第九」の感動的な歴史を知り、それによって独日交流の促進にもつながっていけばと願っています。



「富田資料」について

第一次世界大戦時の日独戦争捕虜について研究をしている方なら、豊橋技術科学大学元教授の故富田弘氏を知らない者はいないでしょう。今でこそ、当時日本に収容されていたドイツおよびオーストリア・ハンガリーの捕虜についての研究者が日本のみならずドイツなどで多くなってきましたし、日本各地にあった収容所の様子もかなり解明されてきました。そして『青島戦ドイツ兵俘虜収容所』という専門の研究誌もあって、すでに第6号を数えるまでになっています。しかし、富田弘氏がこの研究を始められた1980年代には、この領域の研究者は皆無といってよく、まさに青島戦捕虜研究の先駆者と言っても過言ではありません。

氏は惜しくも大学在職中に亡くなられたのですが、没後その研究成果の一部は『板東俘虜収容所－日独戦争と在日ドイツ俘虜』としてまとめられて公刊されました。その後奥様から、研究ノートや資料、原稿、蔵書などがまとめて鳴門市ドイツ館に寄贈されました。その数量は、生前ドイツ館にいただいていた



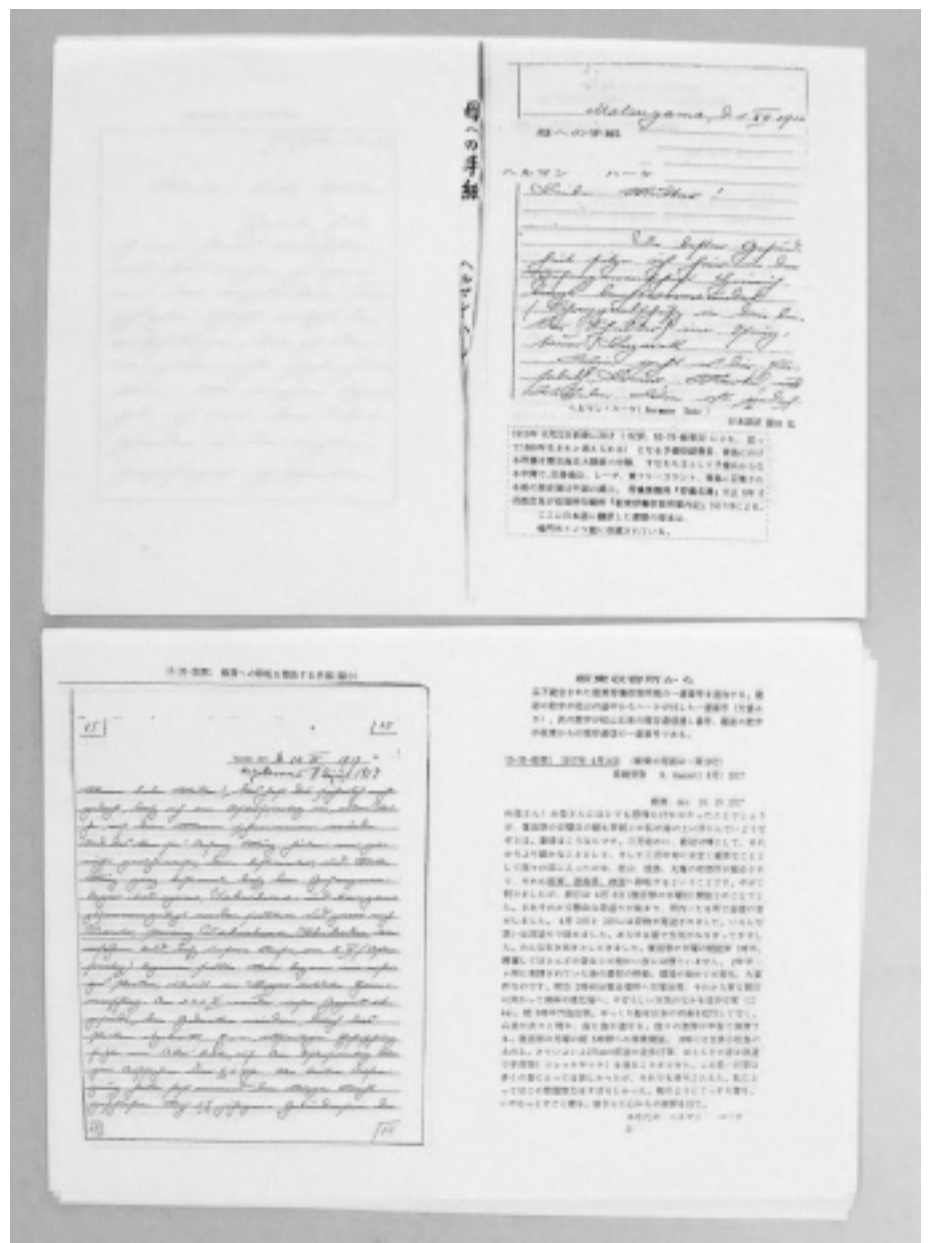
ものも含めて、相当数にのぼります。これらはドイツ館だけの財産ではなく、広く研究者や関心のある方々にも利用していただいで活用すべきものです。事実、コピーされ、研究者やそれ以外の方々の手に渡っているものもあるのですが、それでもなお未公開のものが多くあります。これらの資料については、現在整理作業中で何をどのような形で公開するか決まっていますが、少なくともできるだけ早く利用可能な資料名はインターネットで公開していきたいと考えています。

これらの資料中、捕虜製作印刷物の翻訳は非常に注目すべきもので、その詳細は上記著書に「未発表邦訳資料」としてまとめられています。ほとんどはゼロックスコピーを用いてごく少数、私家版として制作されたものですが、中には『三つの童話』のように本として出版されたものもあります。あるいは『板東俘虜収容所における音楽活動』や『エンゲル・オーケストラ

その生成と発展 1914-1919』のように特に音楽関係の方につとに知られたものもあります。『板東俘虜収容所案内書』は上記の著書に付録として公開されています。これは当時の収容所の活動を知る上で、他では知ることのできない事柄なども書かれていて、歴史史料として貴重なものです。しかし愛らしい冊子であるオリジナル同様、翻訳の私家版冊子も見ていて楽しいものがあります。というのもオリジナルと全く同じ体裁とページの割り付けを行われ、そのためもあったのでしょうが手書き文字で書かれていて、単なる翻訳作業だけに終わらない富田氏のこだわりと打ち込みの強さを感じさせます。そしてその書体からは、氏の几帳面さもうかがえます。これはできればドイツ館への来館者など、一般の方々にも見てもらえるようにしたいと考えています。そうすれば翻訳とはいえ、生の史料から当時の捕虜の様子を知っていただくことができるようになるでしょう。このほかに板東収容捕虜のヘルマン・ハーケが母などに当てた手紙の翻訳もあります。

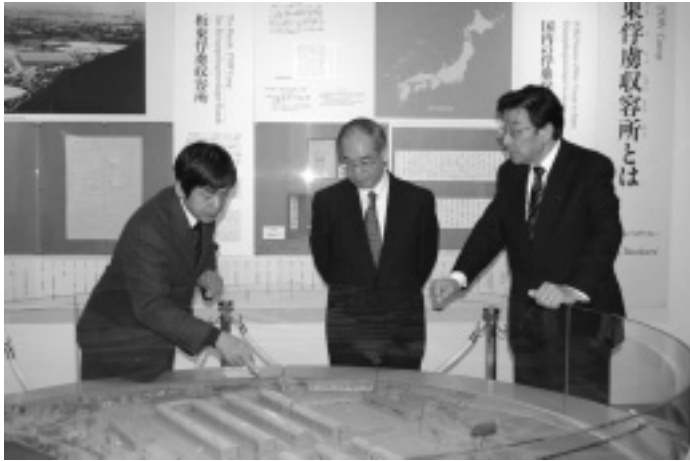
資料中には5インチのフロッピーディスクが90枚ほどもあります。ラベルに書かれたタイトルから見て、原稿や翻訳などさまざまなものが含まれており、ぜひとも中身を読みたくくなりました。そこで特別に5インチフ

ロッピードライブをコンピュータにセットして読み取りを試みたのですが、たった1枚を除いてまったく内容を読むことができませんでした。理由はどうやらディスク自体の劣化よりも記録フォーマットそのものにあるようですが、今のところはまったくお手上げです。氏が亡くなられた1988年から20年しか経っていないのですが、記録メディアとソフトウェアの変遷は激しく、当時のものをまともに取り出すことが非常にむずかしくなっています。一方江戸時代のものは、公文書のみならず全国各地の庄屋や商家で書かれたさまざまな文書でも200年以上の年を経ても虫食いやしみ、汚れなどがある部分は別として十分に読むことができます。コンピュータがどんどん進化するのはとても良い面が多いのですが、電子化された記録は油断すると読めなくなってしまう恐れが非常に大きいことを痛感させられる事態でした。



神余ドイツ駐在大使来館

2月26日に神余ドイツ駐在大使が来館、館内展示を熱心に見学し、質問見学後ドイツ館内で吉田市長と会談されました。ご自身が丸亀の出身とのことで、板東俘虜収容所の副官であった高木大尉が同じ丸亀出身であることを知って、とても喜んでおられたのが印象的でした。



ゴルフ・ニーダーザクセン州首相来館

ドイツ・ニーダーザクセン州のゴルフ首相をはじめとする一行が3月15、16日徳島県を訪問されましたが、ドイツ館へも16日、徳島県への訪問の最後の日程としてドイツ館に来られました。ニーダーザクセン州は昨年徳島県と友好提携を結んだのですが、それには鳴門市がリュネブルク市と長年の姉妹都市であることが大きな要因のひとつとなっています。というのもリュネブルクはニーダーザクセン州に所属する都市なのですが、2005年6月にも同首相ならびに訪問団にドイツ館へ来ていただいておりますので、今回で2回目となります。

今回は政財界のみならず学術関係者も含め、前回より多い40名近くの訪問団でした。合同慰霊碑とドイツ兵慰霊碑での献花のあと、ドイツ館に来られました。玄関前では吉田市長をはじめ鳴門市の方々が出迎え、板東小学校の生徒たちによる「野ばら」の日本語とドイツ語による合唱が一行を歓迎しました。残念ながら、前回とは異なり時間的に非常に窮屈な中で、慌ただしく行事をこなさねばならず、ドイツ館の展示物をじっくり見ていただくことはできませんでした。しかし、首相は小学生の歓迎がとても気に入っていた様子で、最後の別れ際に小学生の輪の中にみずから入っておられました。

今回の訪問団一行の中に、前任の国際交流員であったマティアス・ヒルシュフェルトさんが州政府関係者のひとりとして参加しており、旧知の人たちと親しくことばを交わしておりました。



「ドイツ国際平和村」 支援チャリティイベント

鳴門市ドイツ館の活動の一環として、ドイツ国際平和村を支援する目的で昨年3月に最初のチャリティイベントが開催されました。今年はその第2回目が3月21日と22日に開催されましたが、この活動の中心となっている館員の金沢さんに報告をしてもらうこととします。

この活動はドイツ館単独ではなく、ドイツ館に関係する人たちが実行委員会を立ち上げ、「ドイツ国際平和村」の広報や支援金援助活動を目的にイベントや募金を行っています。「ドイツ国際平和村」とは、1967年ドイツ市民団体の手によって、戦争や内乱に巻き込まれ傷ついた子どもたちを救済するためのNGOとして誕生しました。平和村の活動は、子どもたちの治癒をヨーロッパで行うこと。子どもたちが母国で治癒できるようになること。平和村の紹介を通して平和への関心を高める活動も行っていきます。ドイツのオーバーハウゼンの町にあるこの施設は、平均して9カ国から来た子どもたち約300人を受け入れています。

今年のイベントの様子をご報告する時間的余裕がありませんので、昨年イベントの様子を述べますと、昨年は3月22日、23日の2日間イベントを行いました。「ドイツ国際平和村」にボランティアで参加していた明石英仲さんの報告に続き、この日のためだけに台本作りから行った影あそびとクラシックコンサートのコラボレーション、翌日はザ・サニーサイドジャズオーケストラ&ロイド・シャードコンサートを開催しました。また、平和村の写真パネル展、企画室では東ちづるさんの絵本原画展を開催、多くのお客様に観覧していただき募金をいただきました。

その募金についてですが、ドイツ館では平成19年10月7日から平成20年3月31日の間、募金に取り組み、390,214円を「ドイツ国際平和村」に寄付することができまし

た。平成20年度も10月1日から3月31日まで取り組んでいます。



板東俘虜収容所将校棟跡の発掘調査

昨年3月発行の『ルーエ』第19号で板東俘虜収容所の発掘調査についてお伝えしました。今回は一般兵士用のバラックと製パン所の基礎についての知見が得られました。それに引き続き、今年に入って第1将校棟跡地の発掘調査が鳴門市教育委員会の手によって行われ、基礎の遺構が発見されました。時間的な制約もあり、大規模な発掘ではありませんでしたが、収容所閉鎖後この建物の南側に新たに増築のための基礎が設置されているのが発見されたことは驚きでした。その現地説明会が3月21日(土)に開催され、40名を越す方々が来て、熱心に説明に耳を傾け、質問をしていました。

『研究誌』原稿募集

「青島戦ドイツ兵俘虜収容所」研究会は、2003年以来毎年『研究誌』を発行してきました。今年も次の要領で原稿を募集いたします。

・締め切り 2009年7月31日

※原稿の遅れは他の人の迷惑にもなりますので、8月15日を限度とします。

それ以後に到着したものは、次年度回しにさせていただきます。

・投稿字数 7万字(1ページあたり40字×35行で50ページまで)を一応の限度とします。

・投稿様式 コンピュータを使い、MSワード形式で作成してください。なお1ページ40字×35行とし、フォントを「MS明朝体」、サイズ10.5ポイントに統一します。注は、脚注または最後にまとめるものとします。写真・図版などを挿入する場合は、なるべくそれを含めた原稿を作成してください。

・協力費 研究会費は徴収しませんが、次の要領で協力費をお願いいたします。5ページ以下1,500円、6～10ページ3,000円、11～20ページ4,000円、21～30ページ5,000円、31～40ページ6,000円、41ページ以上7,000円。10ページ以下の投稿者には5部、11ページ以上の投稿者には10部を贈呈します。一般の販売価格は一部500円ですが、贈呈部数を超える部数が必要な投稿者は一部300円で購入できます。

・送付先 次のメールアドレスに、添付ファイルとして送ってください。

info@doitsukan.com (鳴門市ドイツ館)

1月以降の主な行事と特別企画展

1月11日(日) 近藤信貴 with FRIENDS

1月27日(火)～2月9日(月) ドイツ環境保全展

2月14日(土) シオン PIANO SOLO CONCERT

3月21日(土)・22日(日)

「ドイツ国際平和村」支援チャリティーイベント

これからの主な行事

4月12日(日) 第5回 イースター祭り

5月4日(月)・5日(火) 第6回 ドイツワイン祭り

5月17日(日) 特別企画展記念講演会

6月7日(日) ワインタベ

7月4日(土) セタコンサート

これからの特別企画展の予定

4月1日(水)～15日(水) グリム童話絵画展

4月18日(土)～5月7日(木) ドイツワイン展

5月11日(月)～6月14日(日)

ドイツ兵捕虜製作の印刷史料展

7月15日(水)～31日(金)

リュネブルク姉妹都市締結から35年の歩み

行事・特別企画展につきましては、変更する場合がありますので、当館ホームページなどでご確認下さい。



👁️ 編集後記

今年は例年以上に春の訪れが早く、桜のたよりがあちこちから聞かれるようになりました。ドイツ館の裏庭ではモクレンが白い花を咲かせています。3月20日から神戸から鳴門に至るまでの神戸淡路鳴門自動車道の乗車料金が土日祝日に1000円となりましたが、ドイツ館でもその効果が早速現れているようです。これからの来館者の増加を期待しているところです。(川上)